

## 全教「教職員勤務実態調査 2022」最終集計

全日本教職員組合（全教）

「調査の目的」「調査の概要」「回答者の属性等」については、第一次集計の発表資料（p1～3）をご参照ください。この報告の前半では、「教諭・助教諭・講師等」の勤務の特徴をまとめています。

## 1. 教諭・助教諭・講師等（集計数：2106）の勤務時間の特徴

## (1) 時間外勤務の長さ

- 教諭の、校内での時間外と持ち帰りを含めた時間外勤務の“平均”は月 96 時間 10 分であり、厚生労働省の過労死ラインをはるかに超えている。（教職員の所定の勤務時間は 7 時間 45 分。そこに法定労働時間 8 時間をあてはめたとしても 90 時間 49 分である）
- 文部科学省の上限指針＝45 時間未満は 15%に満たず、56%以上が月 80 時間以上である。

## ①時間外勤務（校内・持ち帰り・合計）の平均

	校内時間外	持ち帰り	時間外合計
平日	2時間57分	26分	3時間22分
土曜	2時間33分	44分	3時間16分
日曜	1時間14分	1時間04分	2時間17分
4週	74時間11分	15時間52分	89時間45分
1か月	79時間29分	17時間00分	96時間10分

## ②時間外勤務の分布

時間外勤務/月	割合
45時間未満	14.5%
45時間～80時間未満	29.1%
80時間～100時間未満	17.4%
100時間以上	39.0%
合計	100

## ③時間外勤務（校内及び持ち帰りの合計）の平均（他職種との比較）

	養護教諭	学校栄養職員・栄養教諭	実習教員	寄宿舎指導員	事務職員	学校司書	現業職員
平日	2時間27分	3時間09分	2時間21分	1時間46分	1時間33分	1時間27分	32分
土曜	2時間36分	2時間07分	3時間58分	3時間29分	1時間13分	36分	1時間21分
日曜	1時間10分	2時間08分	2時間46分	1時間32分	29分	25分	17分
4週間	64時間04分	80時間08分	70時間06分	55時間18分	37時間44分	33時間05分	17時間12分
1か月	68時間38分	85時間51分	75時間06分	69時間15分	40時間25分	35時間27分	18時間26分

## ④時間外勤務の分布（他職種との比較）

	45時間未満	45～80時間未満	80～100時間未満	100時間以上
教諭・助教諭・講師等	14.5%	29.1%	17.4%	39.0%
養護教諭	30.5%	37.9%	15.8%	15.8%
学校栄養職員・栄養教諭	31.0%	20.7%	17.2%	31.0%
実習教員	29.4%	37.3%	15.7%	17.6%
寄宿舎指導員	33.3%	53.3%	0.0%	13.3%
事務職員	68.9%	19.7%	8.2%	3.3%
学校司書	73.9%	17.4%	8.7%	0.0%
現業職員	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%

## (2) 時間外勤務の校種別比較

- 小・中・高の時間外勤務の合計(⑦)が月90時間を超える。中学校は100時間を超えている。
- 中・高の土日の校内での時間外勤務(⑤)の長さは部活動の影響であろうか。
- 持ち帰り仕事は幼稚園、小学校が長い。日曜日に幼・小・中は1時間以上。

### ⑤校内での時間外勤務の平均(校種別の比較)

	幼稚園	小学校	中学校	高校	特別支援学校
平日	2時間05分	3時間05分	3時間22分	2時間35分	2時間28分
土曜	49分	1時間22分	4時間08分	3時間57分	50分
日曜	19分	33分	1時間55分	2時間20分	10分
4週	46時間09分	69時間15分	91時間31分	76時間52分	53時間19分
1か月	49時間27分	74時間11分	98時間04分	82時間21分	57時間08分

### ⑥持ち帰り仕事の時間の平均(校種別の比較)

	幼稚園	小学校	中学校	高校	特別支援学校
平日	48分	30分	23分	23分	20分
土曜	44分	53分	44分	31分	33分
日曜	1時間32分	1時間16分	1時間05分	42分	55分
4週	25時間01分	18時間35分	14時間56分	12時間41分	12時間36分
1か月	26時間49分	19時間55分	16時間00分	13時間35分	13時間30分

### ⑦時間外勤務の合計の平均(校種別の比較)

	幼稚園	小学校	中学校	高校	特別支援学校
平日	2時間51分	3時間34分	3時間44分	2時間57分	2時間48分
土曜	1時間34分	2時間15分	4時間52分	4時間28分	1時間22分
日曜	1時間51分	1時間49分	2時間59分	3時間03分	1時間05分
4週	70時間41分	87時間33分	106時間09分	89時間10分	65時間45分
1か月	75時間43分	93時間48分	113時間44分	95時間32分	70時間26分

## (3) 休憩時間について

- 平日に取得した休憩時間の平均は10.1分。小学校4.1分、中学校5.9分で、第一次集計の全職種の結果よりもさらに短い。
- 校種別の分布をみると、教諭全体でも6割以上、小・中では7割が全く休憩していない。
- 年代別、担任の有無、部活顧問の有無、受け持つ授業時間数での比較に、それぞれ特徴が現れている。

### ①取得した休憩時間の平均(校種別)

全体	10.1分
幼稚園	8.8分
小学校	4.1分
中学校	5.9分
高校	25.1分
特別支援学校	11.5分

②取得した休憩時間の分布（校種別）

休憩時間（平日）	0分	1～15分	16分～30分	31分～45分	46分以上
幼稚園	61.2%	10.2%	27.6%	0.0%	1.0%
小学校	79.4%	11.3%	6.7%	2.0%	0.6%
中学校	72.6%	14.1%	9.3%	2.7%	1.4%
高校（全日制）	17.7%	17.1%	37.0%	22.8%	5.4%
特別支援学校	53.8%	19.0%	15.0%	11.5%	0.7%
全体	61.1%	14.0%	15.2%	7.8%	1.9%

③取得した休憩時間の平均（年代別、担任の有無、部活顧問の有無、授業時間数による比較）

年代別	30歳以下	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61歳以上
平日	8.2分	9.2分	10.0分	11.3分	12.1分
担任の有無	通常学級	複式学級	特別支援学級	していない	
平日	7.8分	6.7分	6.1分	15.2分	
部活顧問の有無	対外試合やコンクールのある運動部・文化部・組織の役員		対外試合やコンクールのない運動部・文化部		顧問はしていない
平日	15.1分		11.3分		6.1分
授業時間	1000分以内		1001～1200分		1201分以上
	小：22コマ 中・高：20コマ		小：26コマ 中・高：24コマ		小：31コマ 中・高：28コマ
平日	14.5分		5.1分		4.9分

（４）担任の有無、受け持つ子どもの人数、部活顧問の有無による時間外勤務の長さの比較

①担任の有無による比較

●通常学級の担任の校内での時間外勤務が月80時間を超え、時間外の合計が100時間を超えている。

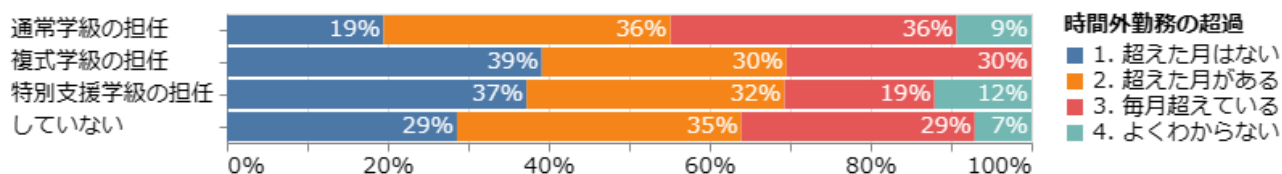
●複式学級の担任、特別支援学級の担任、担任をしていないによる違いは、それほど認められない。

校内時間外	通常学級の担任	複式学級の担任	特別支援学級の担任	していない
平日	3時間19分	2時間37分	2時間41分	2時間41分
土曜	2時間37分	25分	2時間08分	3時間09分
日曜	1時間20分	1時間18分	45分	1時間29分
4週	82時間17分	59時間24分	65時間21分	72時間13分
1か月	88時間10分	63時間38分	70時間01分	77時間22分

持ち帰り	通常学級の担任	複式学級の担任	特別支援学級の担任	していない
平日	29分	41分	24分	24分
土曜	50分	1時間19分	41分	39分
日曜	1時間11分	1時間38分	1時間07分	52分
4週	17時間34分	24時間51分	15時間22分	14時間07分
1か月	18時間50分	26時間37分	16時間28分	15時間07分

時間外合計	通常学級の担任	複式学級の担任	特別支援学級の担任	していない
平日	3時間47分	3時間18分	3時間05分	3時間04分
土曜	3時間27分	1時間35分	2時間49分	3時間48分
日曜	2時間32分	2時間56分	1時間53分	2時間22分
4週	99時間38分	84時間13分	80時間26分	85時間51分
1か月	106時間45分	90時間14分	86時間11分	91時間59分

●あなたは、今年の4月以降、時間外勤務の上限指針（月45時間）を超えた月がありますか。



②通常学級で受け持つクラスの数による比較

●受け持つクラスの子どもの人数が増えるほど時間外が長くなる傾向があるが、特に 20人以内 の場合とそれ以上の場合との差が大きい。

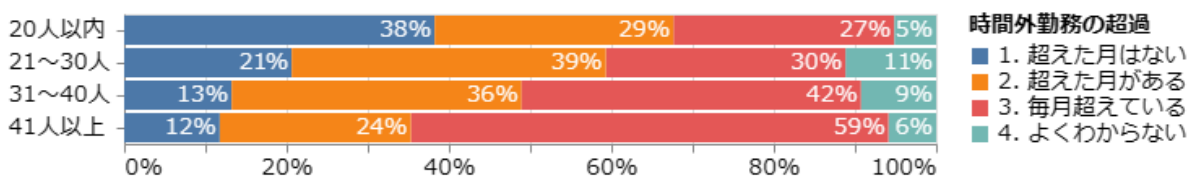
●「上限指針を超えた月はない」と答えた割合が、20人以内では38%だが、21人以上は2割またはそれより低くなっている。

校内時間外	20人以内	21～30人	31～40人	41人以上
平日	2時間43分	3時間21分	3時間28分	3時間1分
土曜	2時間07分	2時間00分	3時間09分	2時間55分
日曜	52分	58分	1時間41分	3時間46分
4週	66時間14分	78時間45分	88時間47分	86時間54分
1か月	70時間58分	84時間22分	95時間08分	93時間07分

持ち帰り	20人以内	21～30人	31～40人	41人以上
平日	26分	32分	27分	23分
土曜	51分	44分	51分	47分
日曜	1時間10分	1時間12分	1時間08分	1時間05分
4週	16時間38分	18時間30分	16時間49分	15時間16分
1か月	17時間50分	19時間49分	18時間01分	16時間21分

時間外合計	20人以内	21～30人	31～40人	41人以上
平日	3時間08分	3時間52分	3時間54分	3時間24分
土曜	2時間58分	2時間44分	4時間00分	3時間42分
日曜	2時間02分	2時間11分	2時間49分	4時間51分
4週	82時間36分	96時間58分	105時間25分	102時間10分
1か月	88時間30分	103時間53分	112時間56分	109時間28分

●あなたは、今年の4月以降、時間外勤務の上限指針（月45時間）を超えた月がありますか



### ③部活動の顧問

- 対外試合やコンクールのある部活動の顧問の土日の校内での時間外勤務の長さは突出しており、時間外の合計が月 100 時間を超えている。
- 対外試合やコンクールのない部活動の顧問や顧問をしていない場合、土日の持ち帰りが長くなっており、時間外の合計では両者による差があまり見られない。

校内時間外	対外試合やコンクールのある運動部・文化部・組織の役員	対外試合やコンクールのない運動部・文化部	顧問はしていない
平日	3時間04分	2時間47分	2時間55分
土曜	4時間15分	1時間57分	1時間19分
日曜	2時間20分	54分	28分
4週	87時間41分	67時間00分	65時間29分
1か月	93時間57分	71時間48分	70時間10分

持ち帰り	対外試合やコンクールのある運動部・文化部・組織の役員	対外試合やコンクールのない運動部・文化部	顧問はしていない
平日	24分	29分	27分
土曜	35分	57分	48分
日曜	52分	1時間10分	1時間11分
4週	13時間37分	18時間01分	17時間05分
1か月	14時間35分	19時間18分	18時間19分

時間外合計	対外試合やコンクールのある運動部・文化部・組織の役員	対外試合やコンクールのない運動部・文化部	顧問はしていない
平日	3時間27分	3時間14分	3時間22分
土曜	4時間50分	2時間53分	2時間07分
日曜	3時間12分	2時間04分	1時間39分
4週	101時間00分	84時間39分	82時間17分
1か月	108時間13分	90時間42分	88時間09分

## 2. 業務の内容について（調査票（1）、全職種）

### （1）いつ、どのような業務を行っているか（資料 p1～p3）

- 所定の勤務時間の時間帯はほとんどが「子どもへの指導」の時間となっており、「指導の準備・成績処理」は朝 6 時半から 8 時、放課後 15 時半からの時間帯に多く、数は少ないが深夜まで続いている。（p1、P2）「会議・報告書の作成」も同様の傾向がある。
- 「自主的な研修」は、平日は 1%以内、土日でも 3%以内であり、ほとんどその時間が取れていない。（p3）

### （2）各業務にあてた時間について

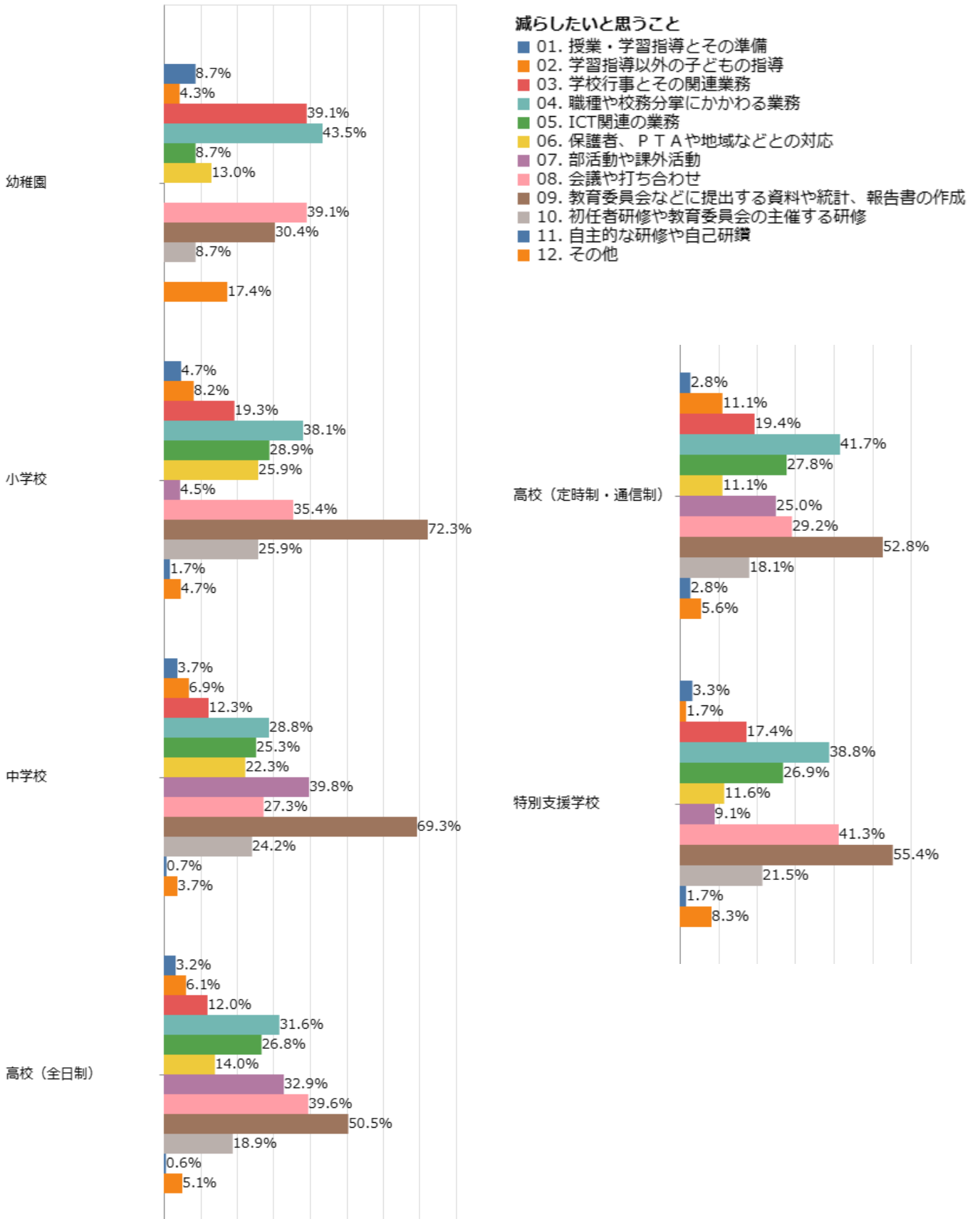
- 所定の勤務時間の中では、校内や出張先などで行う業務、集団で行う業務（A②、E①以外）が優先されるが、その時間を合計すると、ほとんど 7 時間 45 分（所定の勤務時間）に達してしまう。そのため、授業の準備や自主研修などは「時間外」にあふれてしまい、自宅に持ち帰って行ったりせざるを得ない。所定の勤務時間に収まらない量の業務がある。

	平日	幼稚園	小学校	中学校	高校	特別支援学校
A①	子どもへの指導	4時間34.3分	5時間47.9分	5時間1.3分	4時間8.4分	5時間15.6分
A②	授業の準備・まとめ・成績処理	2時間5.1分	2時間29.1分	2時間23.9分	2時間36.4分	2時間13.5分
A③	学校行事関連	40.6分	25.9分	33.8分	27.1分	25.4分
A④	部活動・クラブ活動	0.6分	7.6分	28.9分	33.3分	7.1分
B①	会議など	24.0分	21.6分	23.4分	23.1分	29.8分
B②	分掌業務・書類等の作成	1時間12.2分	40.9分	53.2分	1時間8.9分	1時間4.9分
B③	校内研修	4.7分	6.6分	3.9分	2.5分	3.0分
C①	保護者対応、PTA	10.1分	7.4分	8.3分	5.1分	5.0分
C②	地域への対応	0.3分	1.2分	0.8分	0.9分	1.3分
D	研修、出張	3.9分	8.4分	8.5分	12.3分	5.9分
E①	自主研修	3.0分	4.6分	3.1分	6.0分	4.3分
E②	E②兼職兼業	0.6分	0.6分	0.4分	1.5分	0.4分
	校内、出張先等で行う業務の合計	7時間11分	7時間48分	7時間43分	7時間03分	7時間38分
	A②+E①（後回しにされてしまう業務）	2時間8.1分	2時間34分	2時間27分	2時間42分	2時間18分
	1日の業務の合計	9時間19分	10時間22分	10時間10分	9時間46分	9時間56分

(3) 日常の業務の中で、それにかかる時間を減らしたいこと・もっと時間をかけたいこと

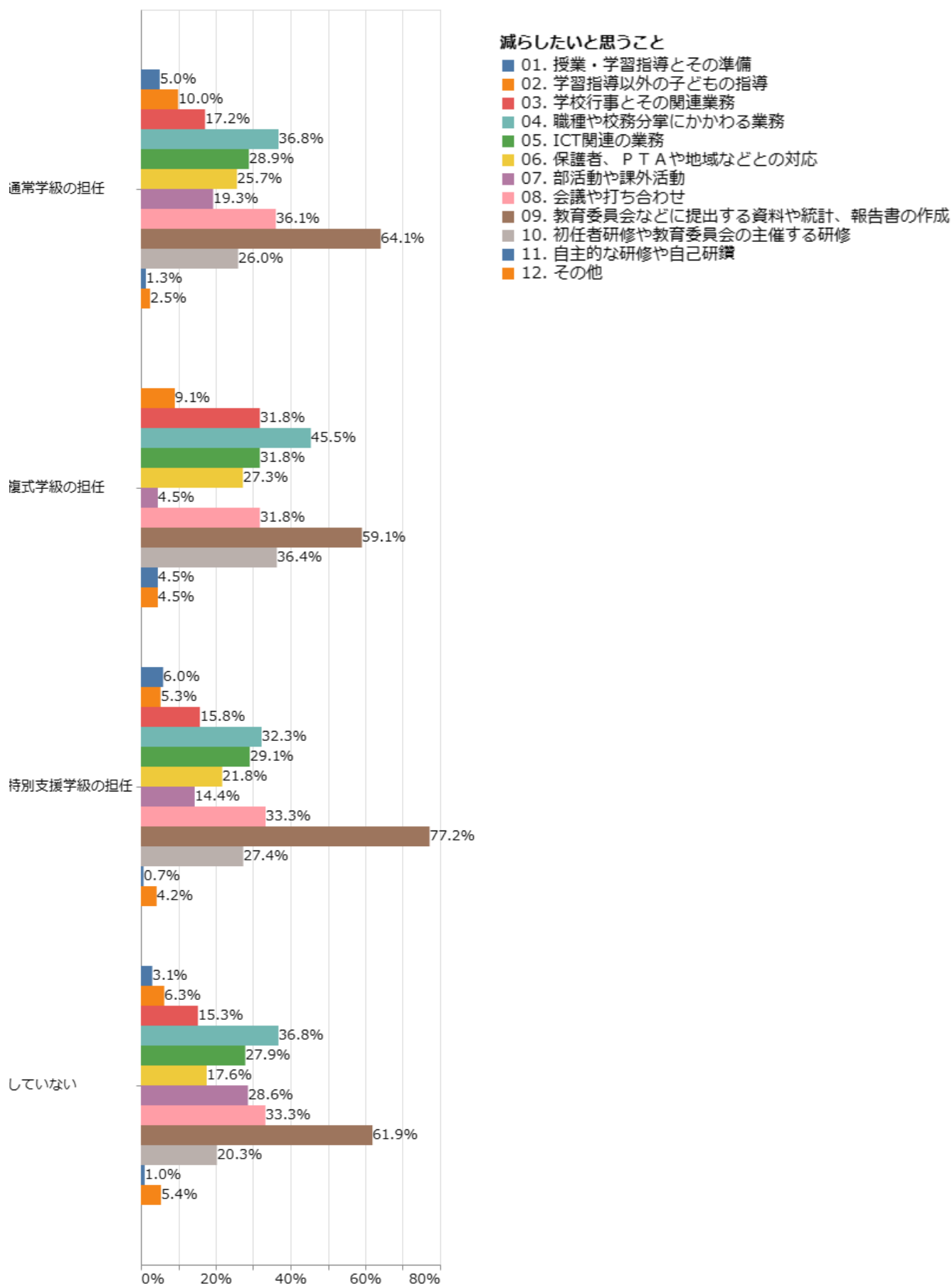
●それにかかる時間を減らしたいこと（校種別の比較）

●特に小中学校で、「報告書の作成」が約70%



●それにかかる時間を減らしたいこと（学級担任）

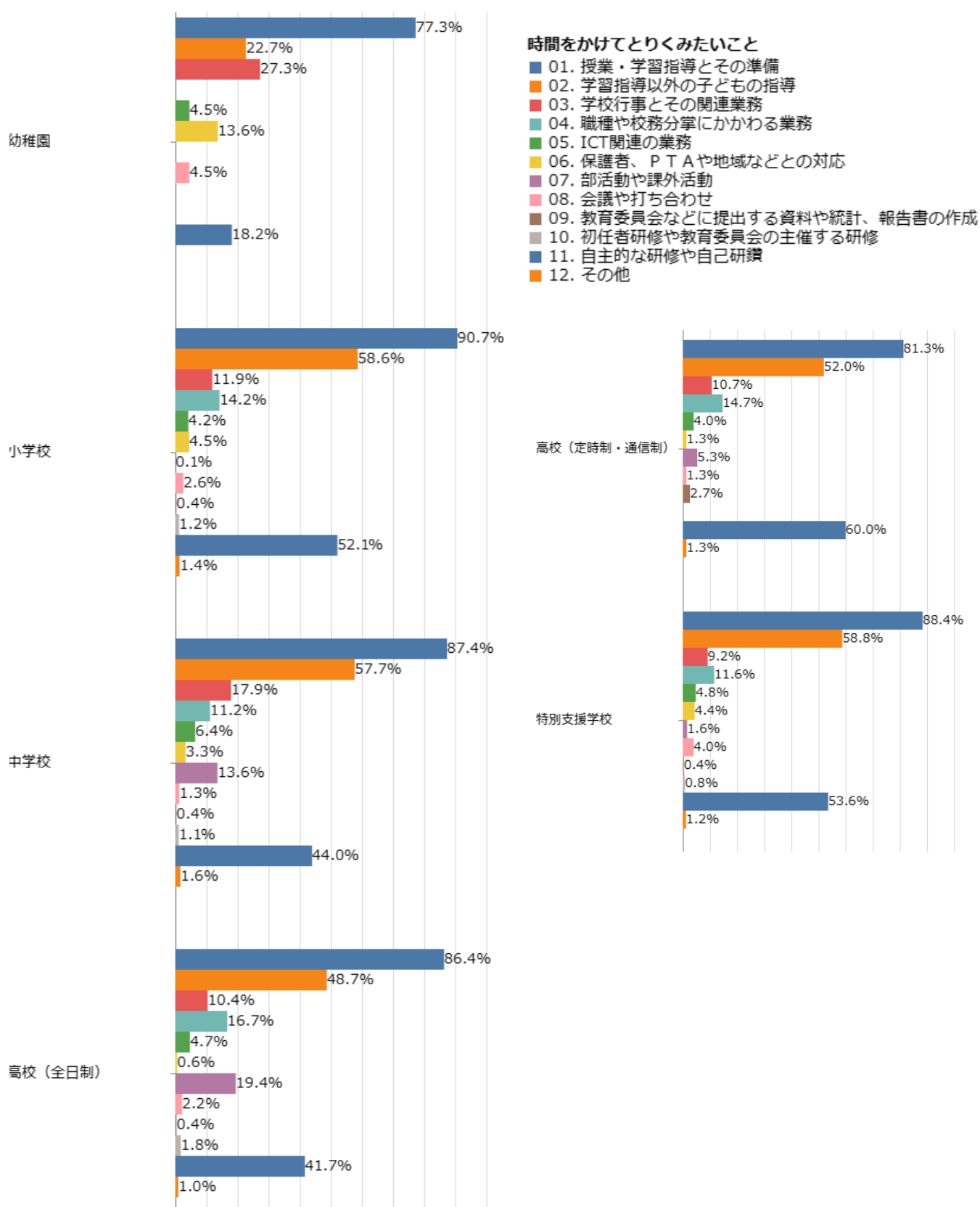
●やはり「報告書の作成」の高さがめだつ





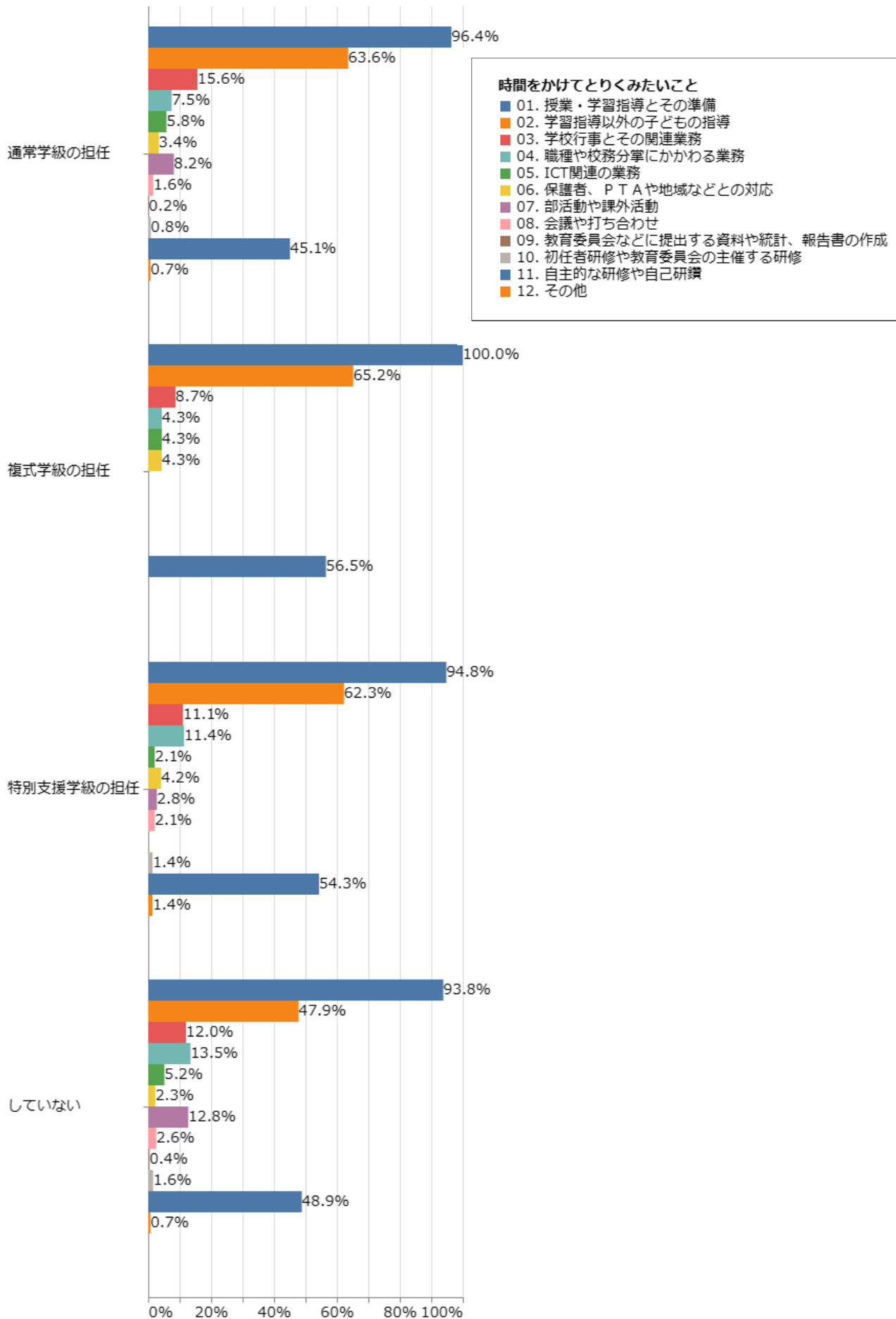
●もっと時間をかけたいこと（校種別の比較）

● 1. 授業の準備、2. 学習指導以外の子どもの指導、3. 自主的な研修



●もっと時間をかけたいこと（学級担任）

●授業の準備と学習指導以外の子どもの指導の%が特に高い。



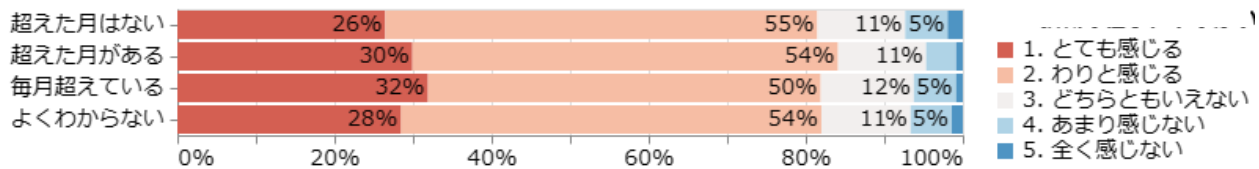
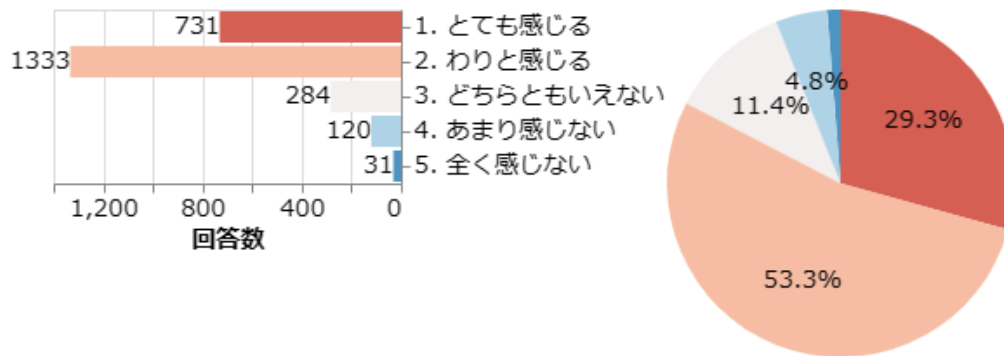
### 3. 調査票（2）の分析から（全職種）

#### （1）「やりがいを感じる」が「続けていく自信がない」

- 80%以上が「教職にやりがいを感じる」と答える反面、50%が「続けていく自信がない」と回答している。
- 「上限指針」を超えている教職員も「やりがいを感じる」としながら「続けていく自信がない」。

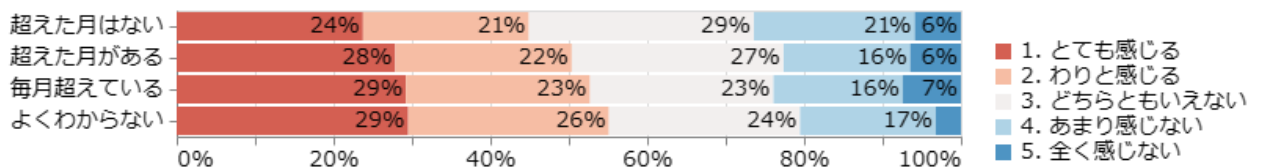
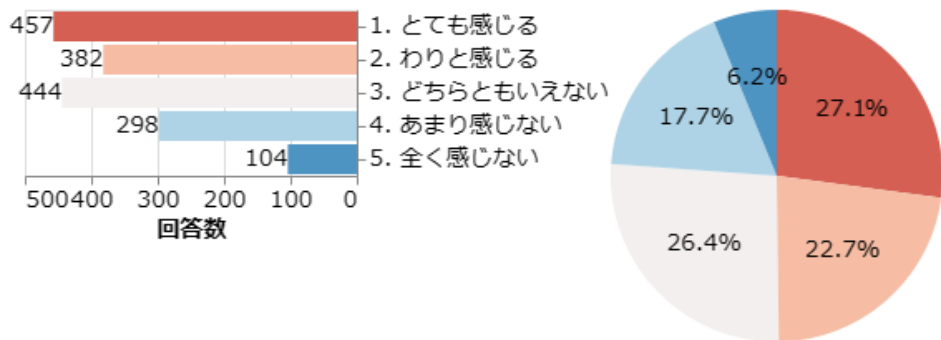
#### 29. あなたは次のことをどれくらい感じますか（各項目1つ選択）

##### ※) A. 教職の仕事にやりがいを感じる



#### 29. あなたは次のことをどれくらい感じますか（各項目1つ選択）

##### ※) E. 定年まで（定年後の場合は今後も）教職を続けられるか自信がない



＜自由記述欄に寄せられた声から＞

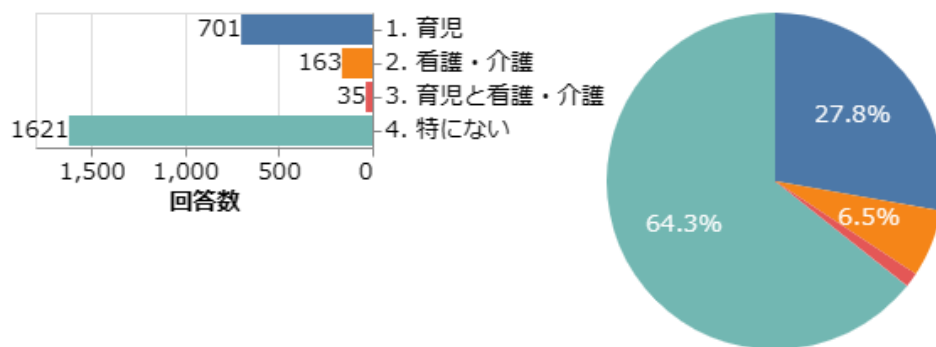
\* やりがいのある仕事だとは思いますが、思いがあればあるほど、自分の時間がなくなるしんどい仕事でもあると感じます。この先、子育て等考えた際に、この働き方はできないと思うことがあり、不安に感じるが多々あります。教師を目指したいと子どもに言われた際に、教師になるといいよ！とおすすめできるような仕事であってほしいと思います。そのためにも業務の改善等をしてほしいです。(東京・小学校・30歳以下・女性)

\* 「子どものために」というやりがいにつけ込んだ、労働者としての当たり前の働き方を無視した制度を早く改善しないと現職の先生をすり潰していただけたと思います。またそんなことがまかり通っている職場に、今後就こうと思ってくれる人はいないと思います。(和歌山・小学校・30歳以下・男性)

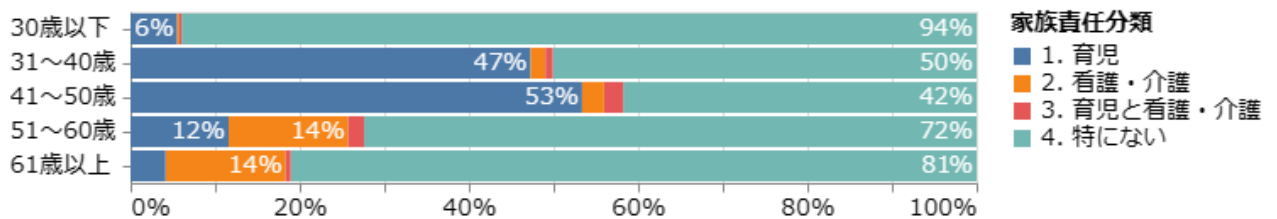
(2) 家族の育児、看護や介護などを行いながら仕事をする教職員

- 約 35%が、育児、看護・介護などの家族責任を負っている。30代、40代はほぼ半数である。
- こうした家族責任を負いながら学級担任を持ったり、部活顧問をしたりしている割合も高い。
- 家族責任を負う教職員が「働き続ける自信がない」と答える割合が高い。

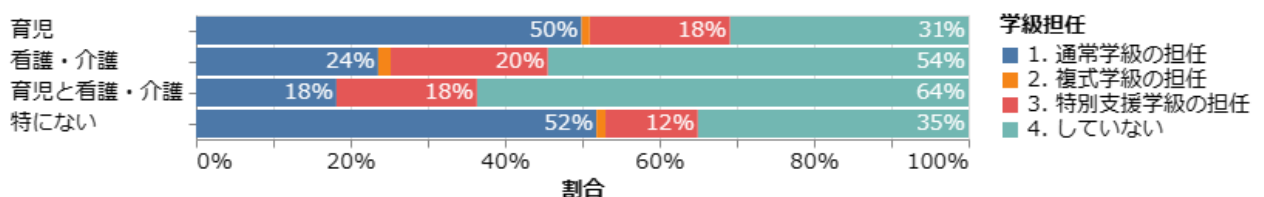
10. あなたは帰宅後、家族の育児、看護や介護などを行っていますか（複数回答可）



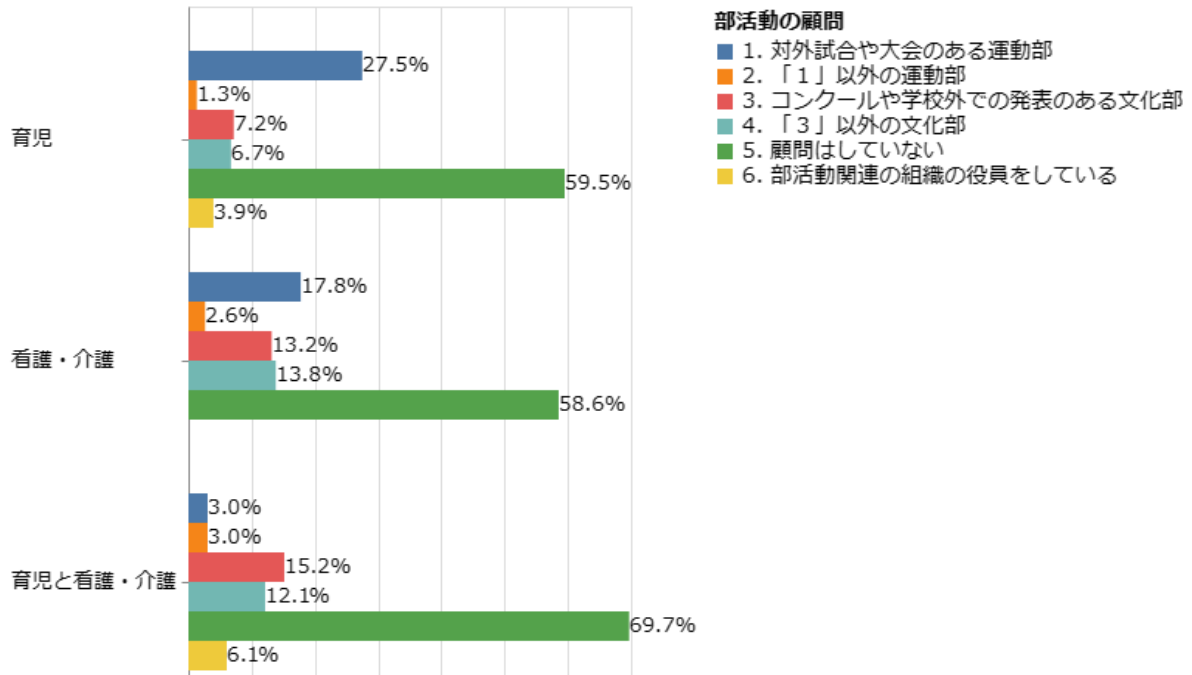
●年代別



●家族責任を持ちながら学級担任

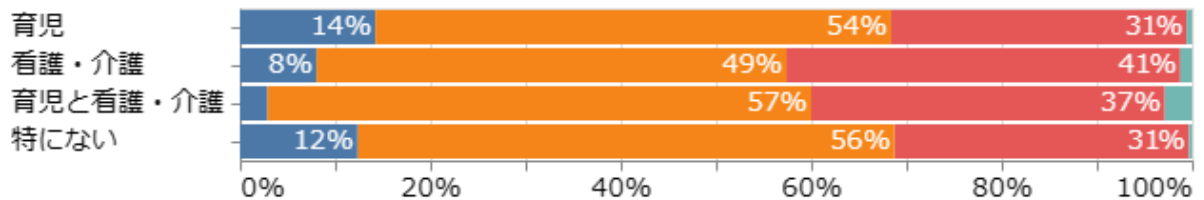


●家族責任を持ちながら部活動顧問



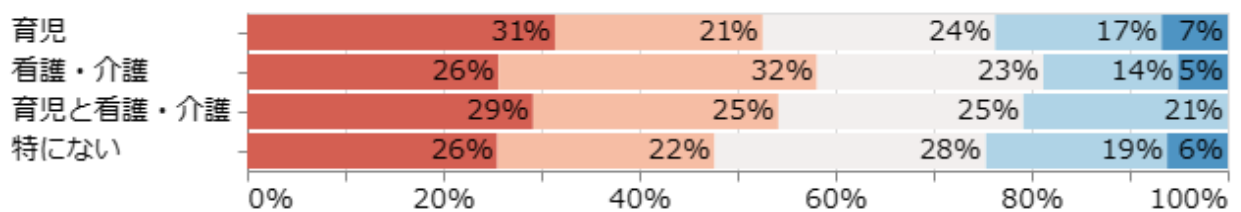
●睡眠によってその日の疲れは解消していますか。

- 1. 一晩の睡眠で心身の疲れが解消され、次の日の勤務に必要なエネルギーが充電できている
- 2. 心身の疲れが翌日に残ることが、時々ある
- 3. 睡眠によってもその日の疲れは解消せず、溜まっていく感じがする
- 4. その他



●定年まで教職を続けられるか自信がないと…

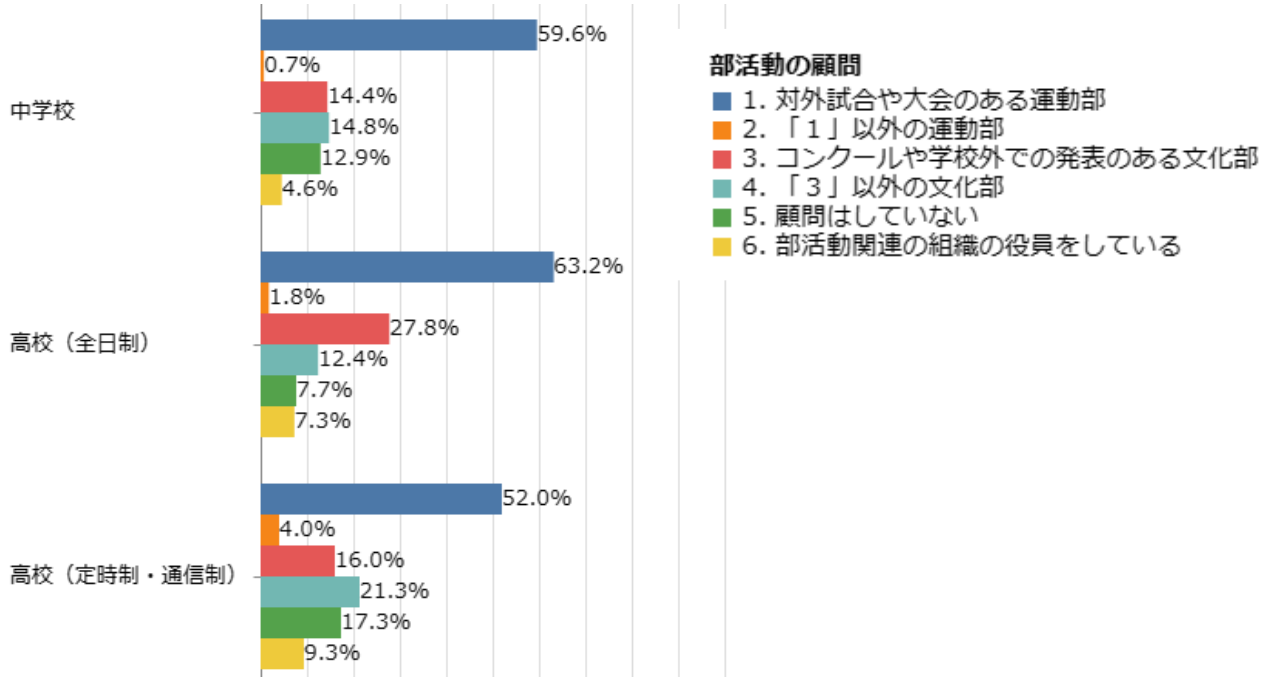
- 1. とても感じる
- 2. わりと感じる
- 3. どちらともいえない
- 4. あまり感じない
- 5. 全く感じない



(3) 部活動について

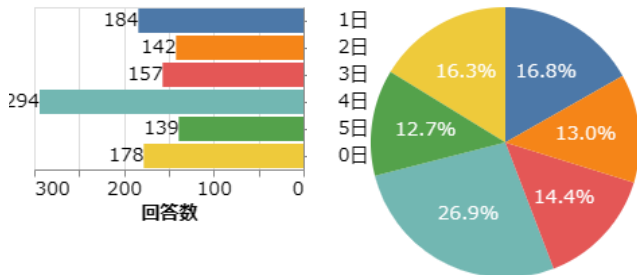
- 中学校・高校の8～9割の教職員が部活動の顧問をしている。しかも、対外試合やコンクールなどのある部活動の顧問が大半である。
- 指導日数をみると、全体で12.7%が平日毎日、16%が土日両日、部活動の指導にあたっている。

①部活動の顧問をしている割合

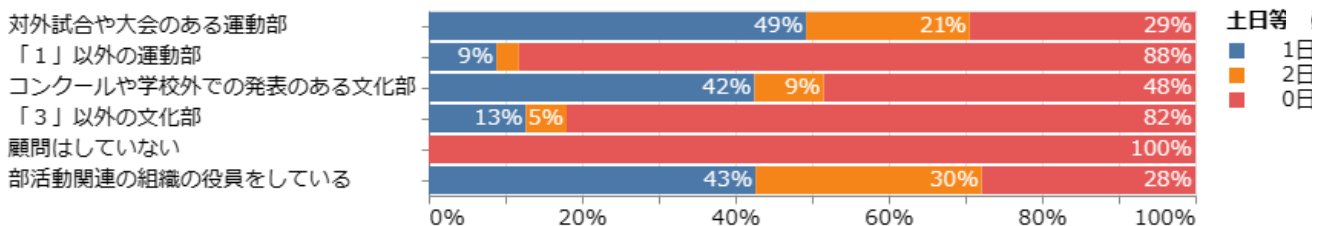
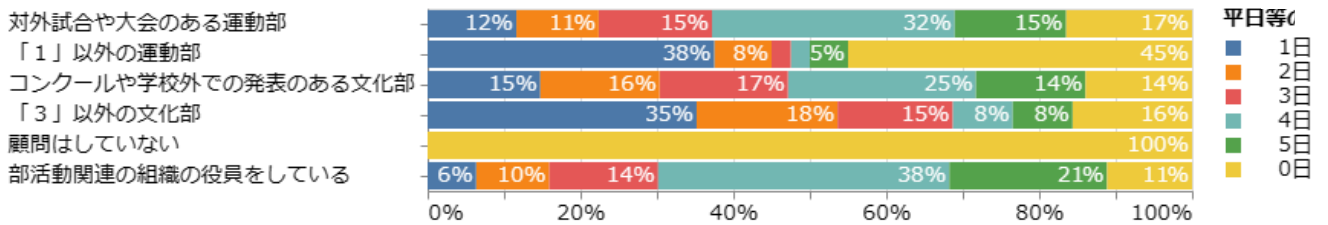
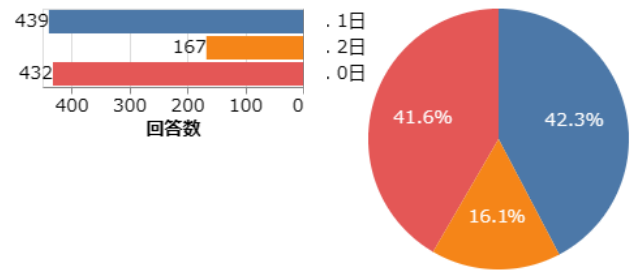


②指導日数 (調査期間中の1週間)

● 平日の指導日数



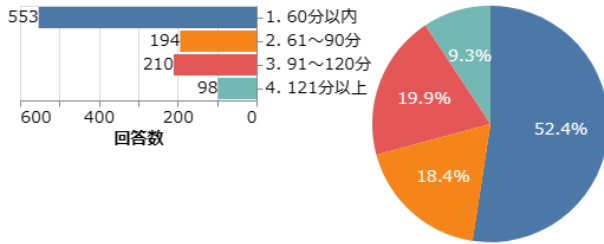
● 休日の指導日数



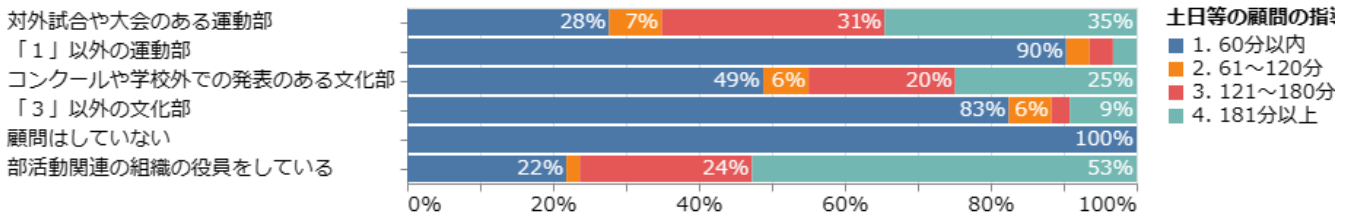
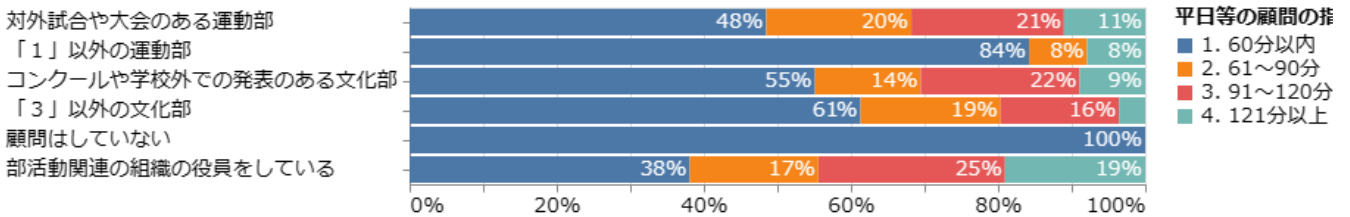
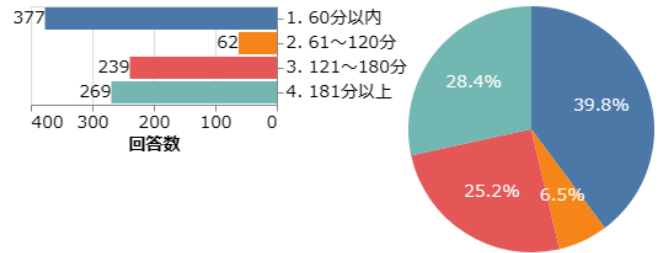
③指導時間（調査期間中の1週間）

●9.3%が平日2時間以上、28.4%が土日3時間以上の指導にあっている。

●平日の指導時間

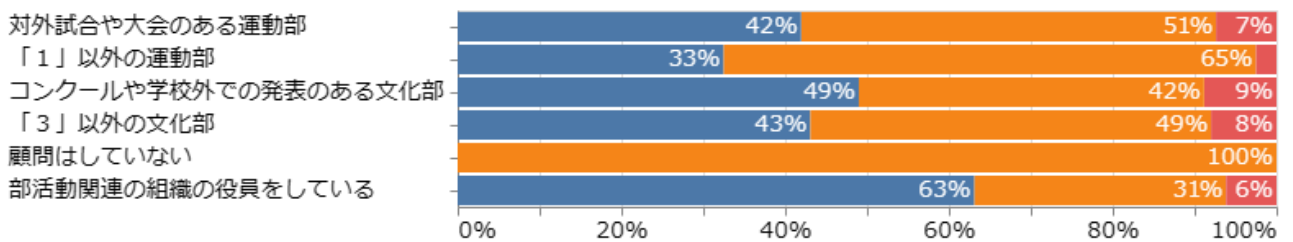
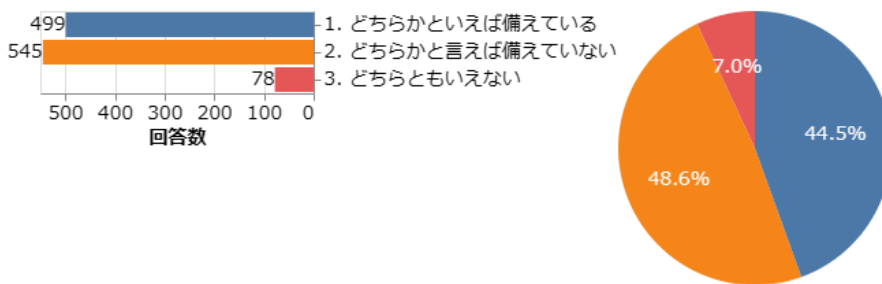


●休日の指導時間



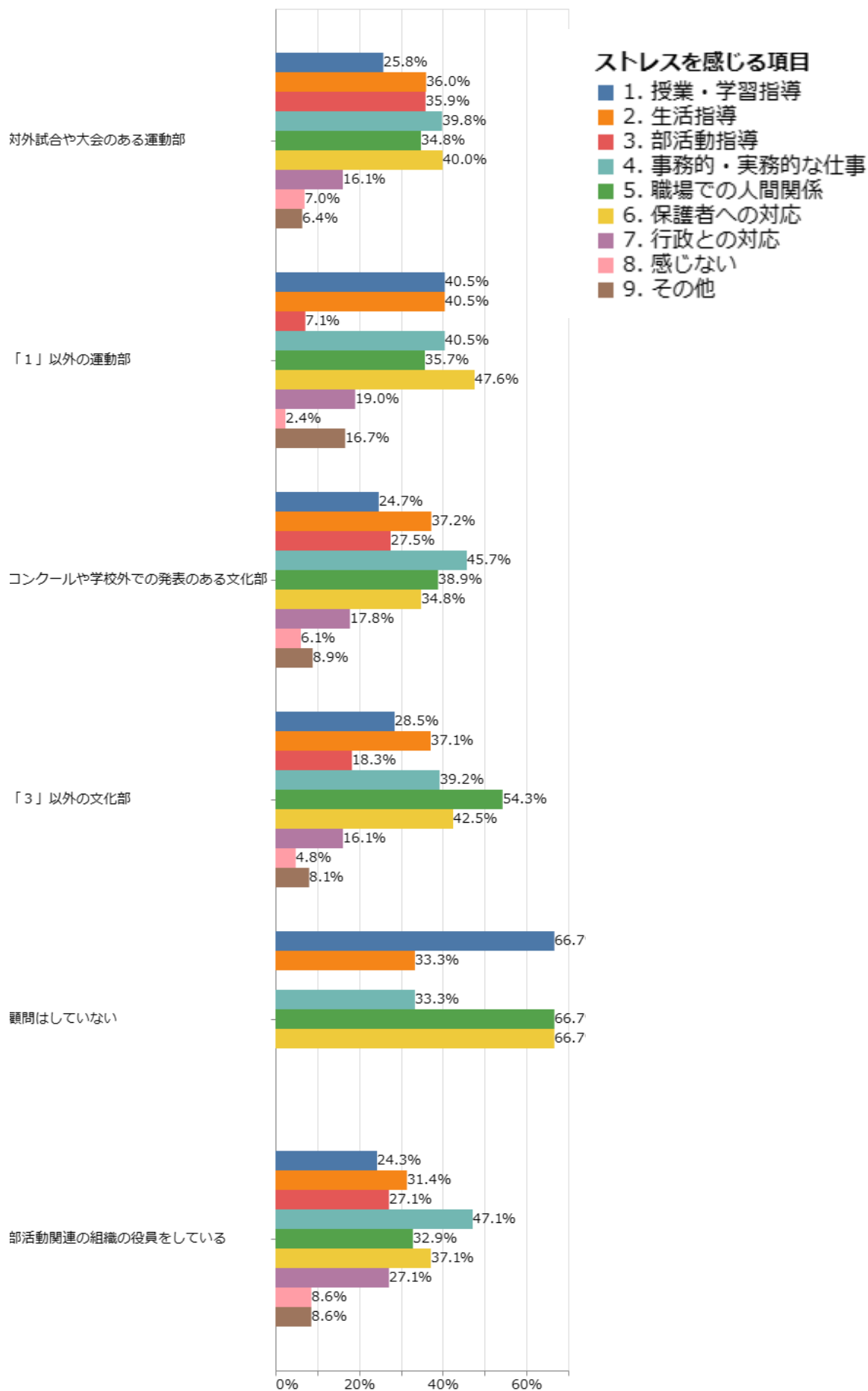
④部活動を指導可能な知識や技術を備えているか

●「どちらかと言えば備えていない」方がわずかに多い。大会やコンクールがある部活動でも半数が「備えていない」と答えている。



⑤部活動顧問の受け持ちの有無とストレスを感じる項目

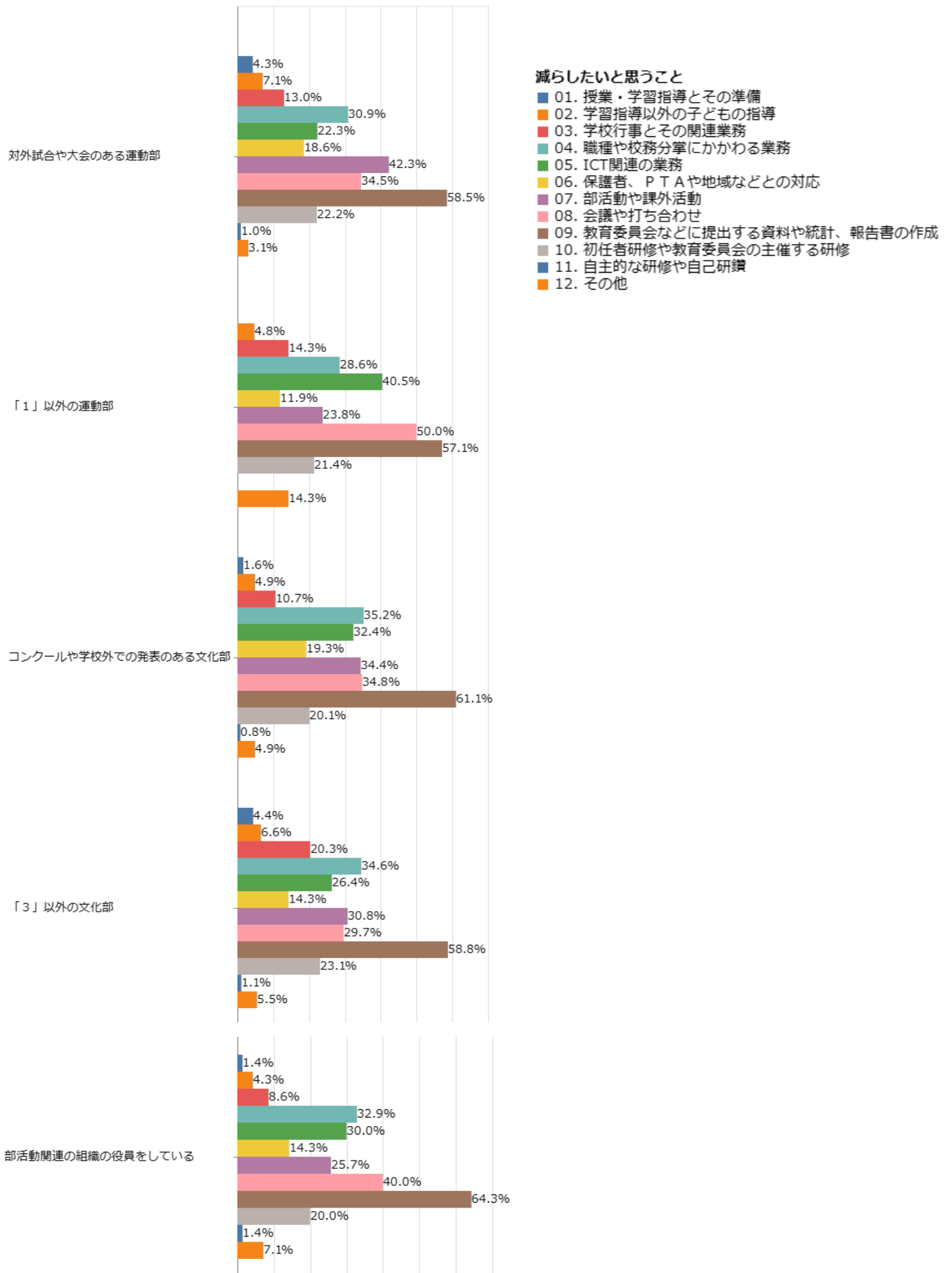
●部活動顧問の多くが、部活動指導にストレスを感じている（平均 30%）





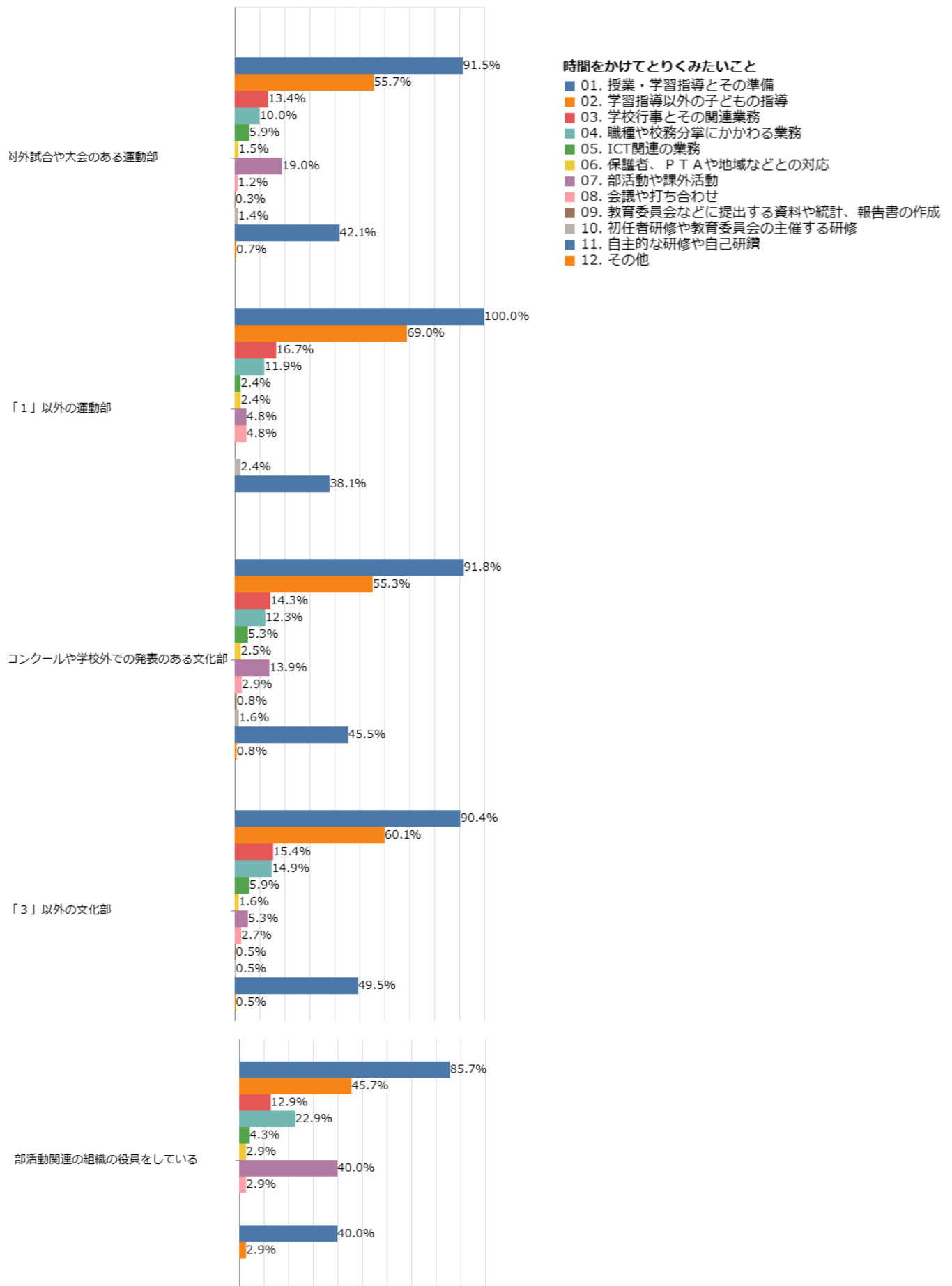
⑥日常業務の中で、部活動顧問と「かける時間を減らしたい」項目

●部活動顧問の多くが、部活動指導に「かける時間を減らしたい」と回答している（平均 38%）



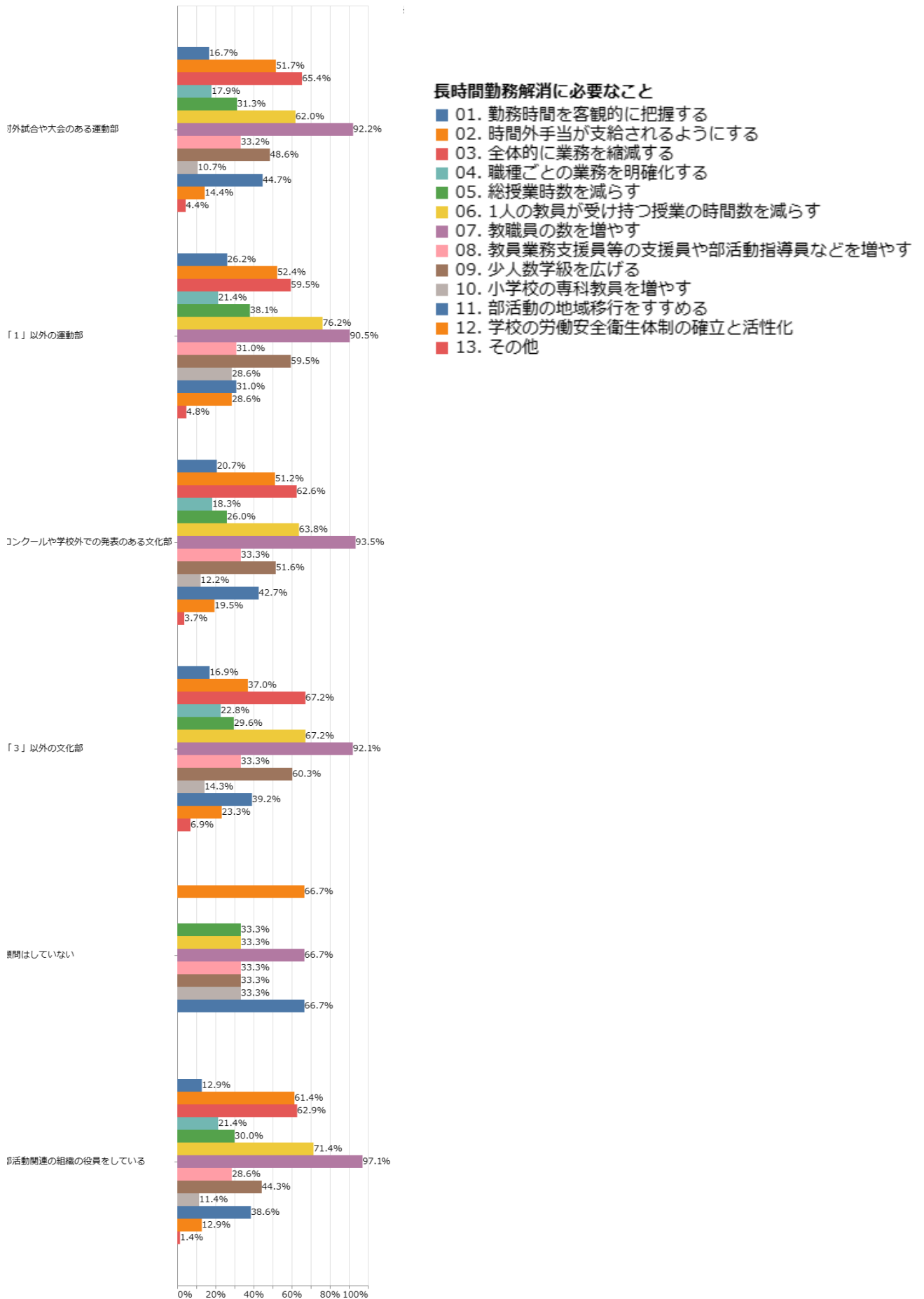
⑦日常業務の中で、部活動顧問と「もっと時間をかけたい」項目

●一方で、16%の部活動顧問は部活動の指導に「もっと時間をかけたい」としている。



### ⑧部活動の「地域移行」への期待

●部活動顧問の43%が長時間労働解消のために部活動の「地域移行」が必要としている。

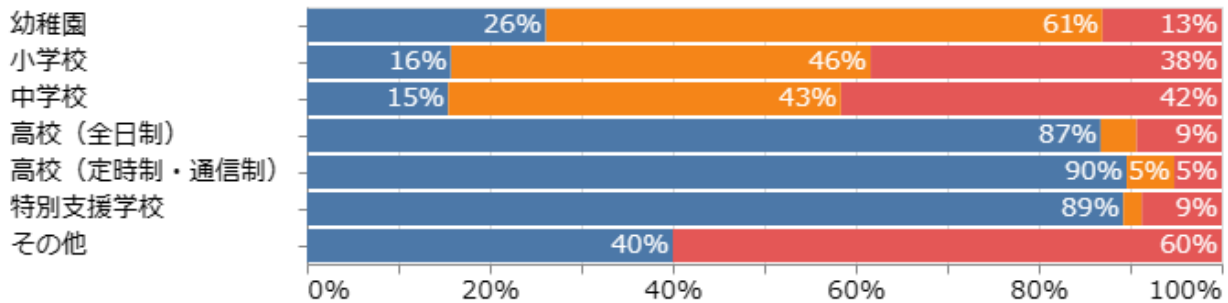
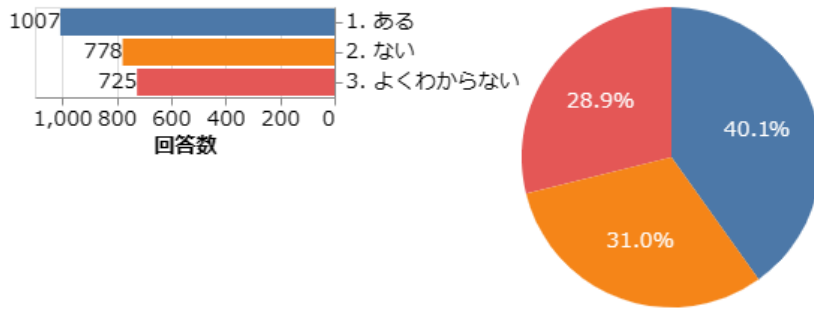


(4) 労働安全衛生活動

●衛生委員会の設置については、義務化されている 50人以上の職場が多い高校・特別支援学校とそうでない小・中学校との状況が対照的。

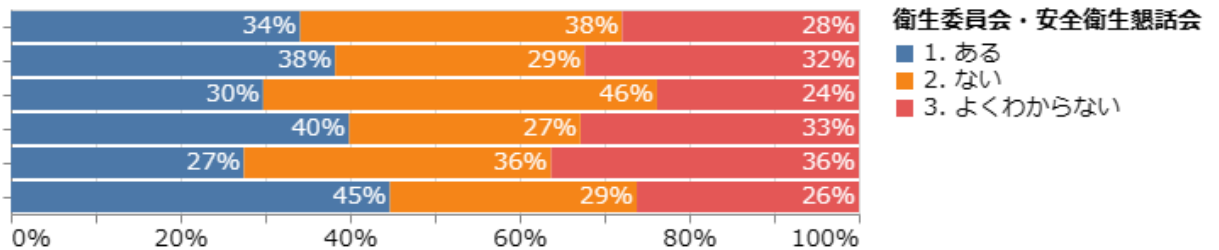
●衛生委員会などが設置されているか

25. あなたの学校には「衛生委員会」または「安全衛生懇話会」等がありますか（1つ選択）

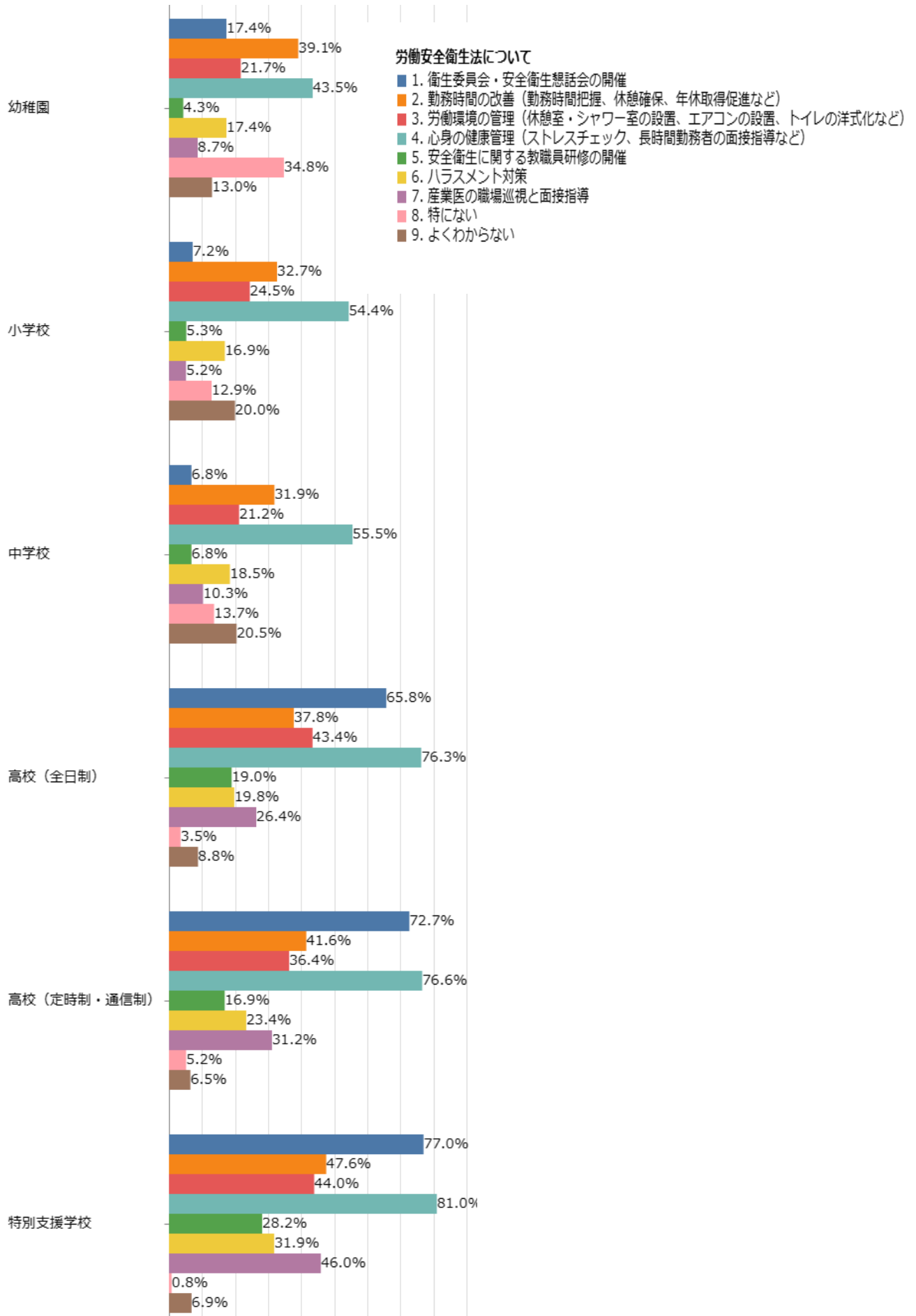


●時短ハラスメントなどと労安体制の相関

- 1. 管理職などから「時短ハラスメント」を受けたことがある
- 2. 「朝早く来ても出勤と記録しないように」、または「遅くまで残る時は退勤記録をつけてから仕事をするように」などと言われたことがある
- 3. 「土日に出勤しても出退勤の記録をつけないように」と言われたことがある
- 4. 強要されているわけではないが、出勤記録をつける前に仕事をしたり、退勤記録をつけたあとに仕事をしたりすることが多い
- 5. 強要されているわけではないが、土日に出勤しても出退勤記録をつけにくいことが多い
- 6. 上記のようなことは特にない



●労働安全衛生法にもとづき、どのようなことが行われているか

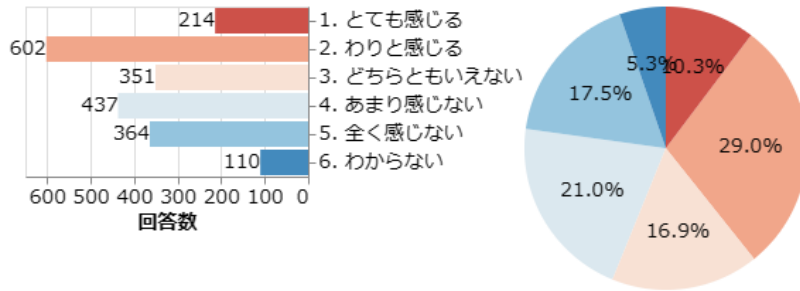


(5) 教職員の「働き方改革」について

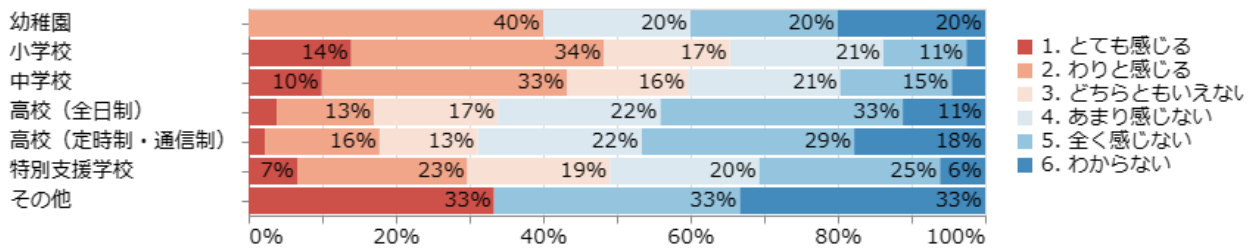
①業務支援員などの配置が業務の改善に役立っているか

●業務支援員などの配置によって「助かっている」とそうではないがほぼ同じくらい。小中学校などで比較的「助かっている」と感じているとの回答が多い。  
 ●支援員が配置されている職場では約半数が「助かっている」と感じているが、20～30%はそうではないとの回答も。

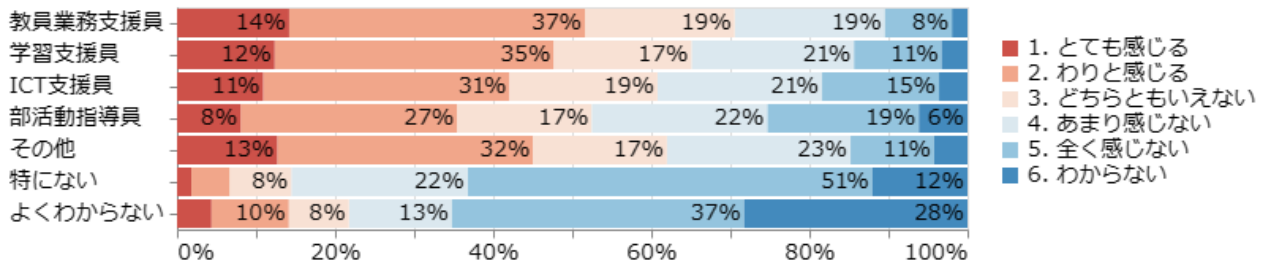
34. あなたは、この間すすめられてきた「学校における働き方改革」の影響についてどう考えますか（各項目1つ選択）  
 ※) A. 教員業務支援員などが配置されたことで、業務が軽減され、助かっている



●校種別の比較



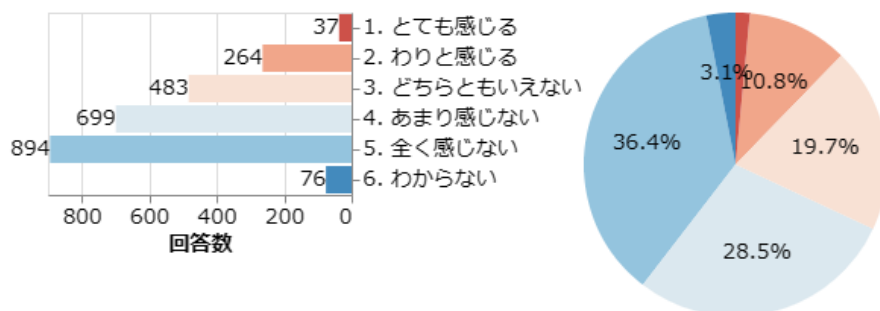
●支援員などが配置されているかどうかによる比較



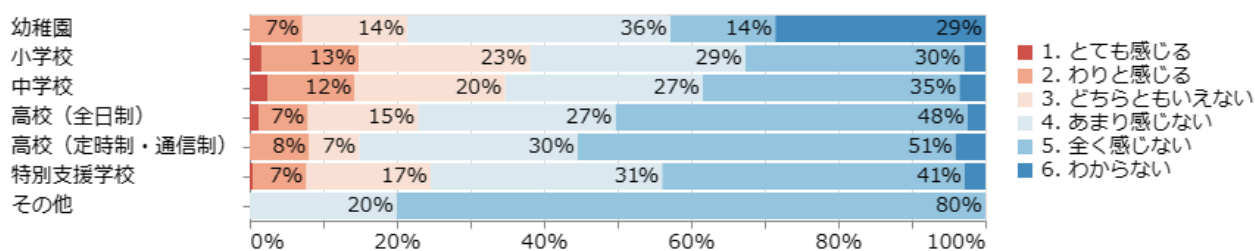
## ②教育の ICT 化が業務の改善につながっているか

- 教育の ICT 化が「業務の改善につながっている」という回答は約 3 割で、そう思わない回答が 4 割。
- 校種別にみると、小中学校で「業務の改善につながっている」が多い。
- 支援員が配置されているところでは約 15%で、60%がそう思わないと回答している。

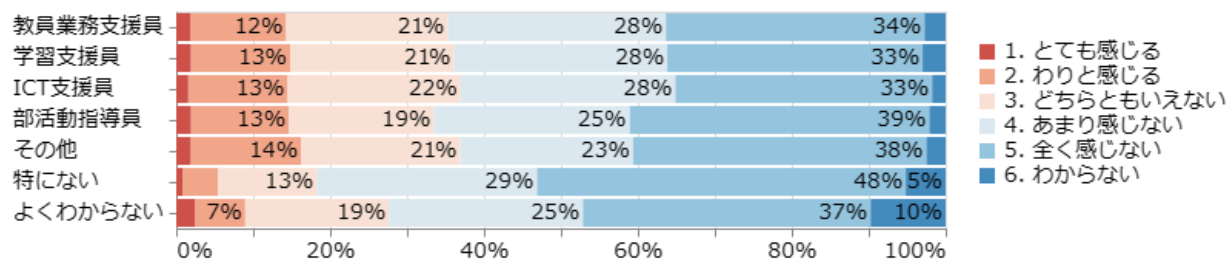
### 34. あなたは、この間すすめられてきた「学校における働き方改革」の影響についてどう考えますか（各項目 1つ選択） ※) E. 授業や校務における教育のICT化が、業務の軽減につながっている



#### ●校種別の比較



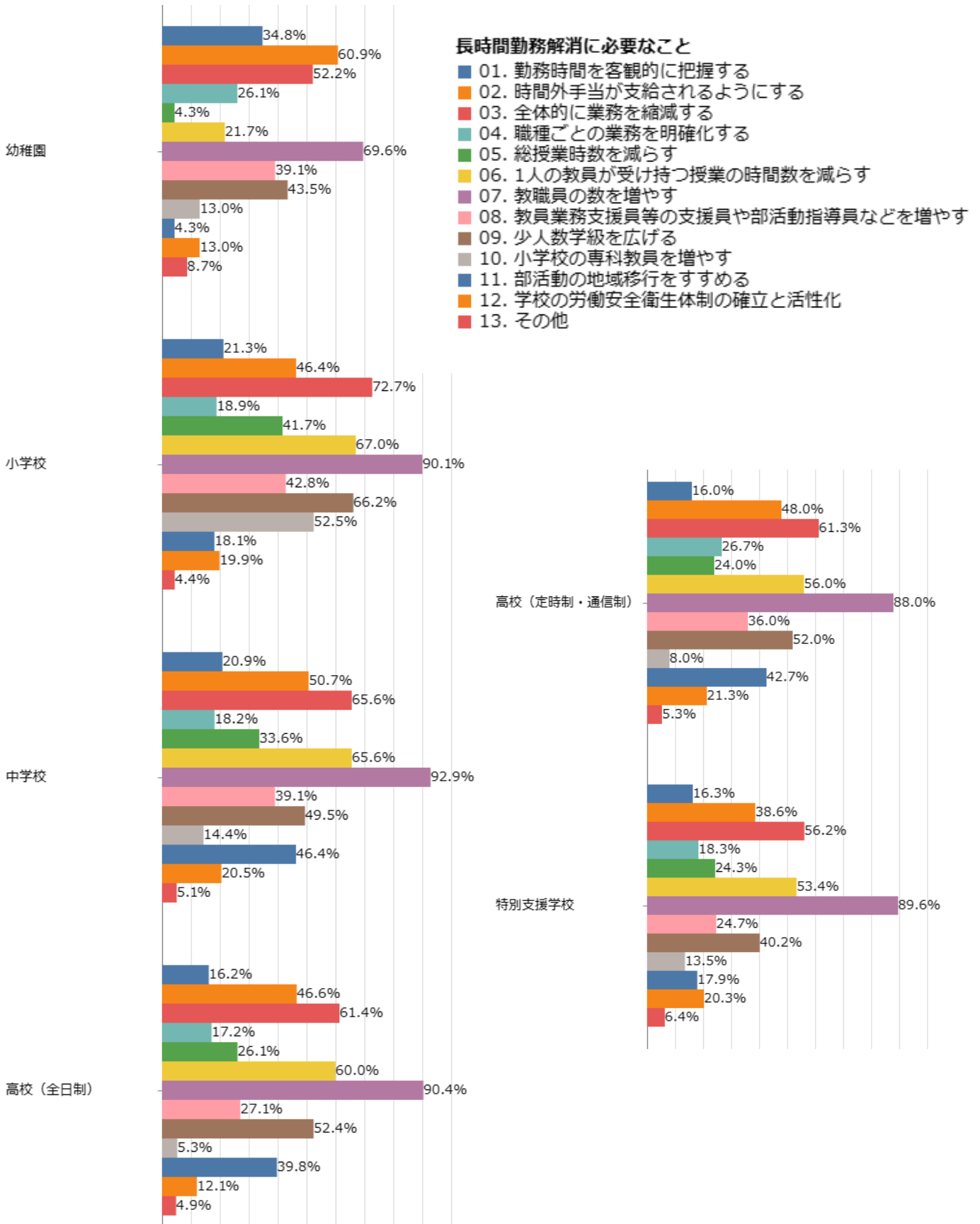
#### ●支援スタッフの配置の有無による比較



(6) 長時間勤務解消に必要なこと

● どのようなクロス集計をしても、全体的な傾向はほぼ変わらず、最も多いのが教職員の数を増やすこと。小学校では「専科教員を増やす」の、学級の人数が多いほど「少人数学級」の率が高い。

● 校種別の比較





●学級の人数による比較

